	I									
授業科目	応急処:	置 A			担当教員	池田 悠輔				
対象年次・学期	2 年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数 45 回 時間数			90 時間		
授業目的		・傷病者の的確な観察結果に基づく適切な救急救命処置を実施する。いずれも、継続観察の重要 性を理解する。								
到達目標		・特定行為を理解し処置ができる。 ・MC 体制のプロトコールを理解し実践できる。 ・救急技術を完全に習得し隊員間の連携活動ができる能力を養う。 ・救急活動時の判断能力を 養う。								
テキスト・ 参考図書等	・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト ・別途配付資料									
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80							
評価方法・	レポー	•	0	宝技章	式験 80%					
評価基準	小テス	-	0		乳炭 30% 則定 20%					
	提出物		0							
 履修上の	その他	盎하교요	20	→ +=	ドブ宇羽を行う					
留意事項		別紙授業計画に基づき小グループ方式で実習を行う。 各項目の最終で効果測定を実施し、スキルの成熟度を測る。								
履修主題・	回		履修主題			履修[内容			
履修内容	1	特定行	万為		器具気道確保	Rの適応と手順(1	年次の復習)		
	2	特定行	万為		器具気道確保の適応と手順(1年次の復習)					
	3	特定行			器具気道確保	保(効果測定)				
	4	特定行			器具気道確保	保(効果測定)				
	5	特定行			静脈路確保の適応と手順、ルート作成					
	6	特定行			ルート作成(効果測定)					
	7	特定征			ルート作成(効果測定)					
	8	特定征			静脈路穿刺の危険リスクと針刺事故について					
	9	特定行			静脈路穿刺					
	10	特定征	 <u></u>		静脈路穿刺					
	11	特定行			ルート接続と	:滴下調整				
	12	特定行	一 一		ルート接続と	:滴下調整				
	13	特定行			静脈路穿刺、	ルート接続、滴	調整(効果	測定)		
	14	特定征	 		静脈路穿刺、	ルート接続、滴	調整(効果	測定)		
	15	特定行	 		アドレナリン	/の適応と危険リス	<u></u> スク			
	16	特定行	 于為		三方括栓操作	Eとアドレナリン 技	 没与方法			
	17	特定行	 一		三方括栓操作	■とアドレナリン 持	25(効果測	定)		
	18	特定行			気管挿管で使	きう資機材について	、 気管挿管	の適応		
	19	特定行為			気管挿管の準	準備、手順について	<u> </u>			
	20	特定行為			気管挿管準備	±				
	21	特定行			気管挿管準備	±				
	22	特定行			気管挿管準備	請(効果測定)				
	23	特定行	 万為		気管挿管の手	三順				

24	特定行為	気管挿管の手順
25	特定行為	気管挿管の手順
26	特定行為	気管挿管の手順(効果測定)
27	特定行為	気管挿管の手順(効果測定)
28	特定行為	血糖測定/ブドウ糖投与の適応とリスクについて
29	特定行為	意識障害の鑑別方法と測定準備
30	特定行為	意識障害の鑑別方法と測定準備
31	特定行為	血糖測定の手順
32	特定行為	血糖測定の手順
33	特定行為	意識障害の鑑別から血糖測定 (効果測定)
34	特定行為	意識障害の鑑別から血糖測定 (効果測定)
35	特定行為	ショック前輸液の適応とリスク
36	特定行為	ショックの判断と輸液準備
37	特定行為	ショックの判断と輸液準備
38	特定行為	ショックの判断と輸液(効果測定)
39	特定行為	ショックの判断と輸液(効果測定)
40	特定行為	実践想定隊活動
41	特定行為	実践想定隊活動
42	特定行為	実践想定隊活動
43	特定行為	実践想定隊活動
44	特定行為	実践想定隊活動
45	特定行為	実践想定隊活動

선생 사 기 디	 	担当 教員	川島清志		 看護師として救急医療に従事し、
授業科目	応急処置 A	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当			
		実務経験			
		 担当 教員			
		実務経験			
		 担当 教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	応急処:	置 B			担当教員	池田 悠輔				
対象年次・学期	2年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	45 回	時間数	90 時間		
授業目的	・傷病症性を理解			づく道	動切な救急救命	処置を実施する。	いずれも、糸	継続観察の重要		
到達目標	・特定行為を理解し処置ができる。 ・MC 体制のプロトコールを理解し実践できる。 ・救急技術を完全に習得し隊員間の連携活動ができる能力を養う。 ・救急活動時の判断能力を 養う。									
テキスト・ 参考図書等	・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト・別途配付資料									
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80							
評価方法・	レポー	٢	0	宇共言	式験 80%					
評価基準	小テス	٢	0		乳炭 80% 則定 20%					
	提出物		0							
尼收 L の	その他	***	20							
履修上の 留意事項		別紙授業計画に基づき小グループ方式で実習を行う。 各項目の最終で効果測定を実施し、スキルの成熟度を測る。								
履修主題・	回		履修主題			履修[内容			
履修内容	1	特定征			器具気道確保の適応と手順(1年次の復習)					
	2	特定行			器具気道確保の適応と手順(1年次の復習)					
	3	特定符	丁為		器具気道確保	R(効果測定)				
	4	特定行	 う為		器具気道確保	保(効果測定)				
	5	特定行	 う為		静脈路確保の適応と手順、ルート作成					
	6	特定行	 う為		ルート作成(効果測定)					
	7	特定行	 う為		ルート作成(効果測定)					
	8	特定行			静脈路穿刺の危険リスクと針刺事故について					
	9	特定行	 う為		静脈路穿刺					
	10	特定征	 T為		静脈路穿刺					
	11	特定行	万為		ルート接続と	:滴下調整				
	12	特定行	丁為		ルート接続と	- :滴下調整				
	13	特定征			静脈路穿刺、	ルート接続、滴つ	調整(効果	測定)		
	14	特定行	 		静脈路穿刺、	ルート接続、滴菌	調整(効果	測定)		
	15	特定征	 T為		アドレナリン	/の適応と危険リス	スク			
	16	特定征	 T為		三方括栓操作	■とアドレナリン 技	 设与方法			
	17	特定征	丁為		三方括栓操作	■とアドレナリン 技	设与 (効果測	定)		
	18	特定征	 <u></u>		気管挿管で使	きう資機材について	 て、気管挿管	の適応		
	19	特定行為			気管挿管の準	≛備、手順について	5			
	20	特定征	一		気管挿管準備	Ħ				
	21	特定行	丁為		気管挿管準備	± Ħ				
	22	特定征	一 方為		気管挿管準備	請(効果測定)				
	23	特定行	 -		気管挿管の手					
	İ	Ì			以目押目の士順					

24	特定行為	気管挿管の手順
25	特定行為	気管挿管の手順
26	特定行為	気管挿管の手順(効果測定)
27	特定行為	気管挿管の手順(効果測定)
28	特定行為	血糖測定/ブドウ糖投与の適応とリスクについて
29	特定行為	意識障害の鑑別方法と測定準備
30	特定行為	意識障害の鑑別方法と測定準備
31	特定行為	血糖測定の手順
32	特定行為	血糖測定の手順
33	特定行為	意識障害の鑑別から血糖測定 (効果測定)
34	特定行為	意識障害の鑑別から血糖測定 (効果測定)
35	特定行為	ショック前輸液の適応とリスク
36	特定行為	ショックの判断と輸液準備
37	特定行為	ショックの判断と輸液準備
38	特定行為	ショックの判断と輸液(効果測定)
39	特定行為	ショックの判断と輸液(効果測定)
40	特定行為	実践想定隊活動
41	特定行為	実践想定隊活動
42	特定行為	実践想定隊活動
43	特定行為	実践想定隊活動
44	特定行為	実践想定隊活動
45	特定行為	実践想定隊活動

授業科目	応急処置 B	担当 教員	川島清志		 看護師として救急医療に従事し、
1又未代口	心心处理	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	外傷各詞	傷各論・小児・高齢者 A			担当教員	藤田智	藤田智		
対象年次・学期	2年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間	
授業目的	・人体部位別の外傷損傷がわかり、対処できる知識を備える。 ・小児、高齢者に特有の外傷疾 患を理解できる。								
到達目標	・各損傷部位に対する処置、重症度・緊急度の判断、小児、高齢者に特有の外傷についての説明 ができる。								
テキスト・ 参考図書等	・改訂 第 10 版 救急救命士標準テキスト ・JPTEC ガイドブック								
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		80						
評価方法・	レポー	۲	0	÷##÷	式験 80%				
評価基準	小テス	١-	20		式映 80% Fスト 20%				
	提出物		0						
	その他		0						
履修上の 留意事項	レポー	トを課す	す場合がある。不	明点に	は、積極的に質	問すること。			
履修主題・	0		履修主題		履修内容				
履修内容	1	外傷約	公論		疫学と外傷システム、受傷機転				
	2	外傷絲	総論		外傷の病態生	理、JPTEC			
	3	外傷各	5論		頭部外傷、頸	部外傷			
	4	外傷各	5論		脊椎・脊髄外	傷			
	5	外傷各	5論		胸部外傷、腹	三 夏部外傷			
	6	外傷各	5論		骨盤、四肢外	場、皮膚・軟部組	 且織損傷		
	7	外傷名	 3論		小児高齢者外		スポーツ外傷		
	8	外傷各	5論		熱傷				
	9	その他	也の外傷		電撃症・化学	4損傷			
	10	その他	也の外傷		縊頸・刺咬傷	<u> </u>			

授業科目	外傷各論・小児・高齢者 A	担当教員	川島	清志	看護師として救急医療に従事し、
1支未行日	が一方に 一方で	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	外傷各詞	易各論・小児・高齢者 B			担当教員	藤田智			
対象年次・学期	2年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間	
授業目的	・人体部位別の外傷損傷がわかり、対処できる知識を備える。 ・小児、高齢者に特有の外傷疾 患を理解できる。								
到達目標	・各損傷部位に対する処置、重症度・緊急度の判断、小児、高齢者に特有の外傷についての説明 ができる。								
テキスト・ 参考図書等	・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト ・JPTEC ガイドブック								
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		80						
評価方法・	レポー	١-	0	中無≐	官期試験 80%				
評価基準	小テス	١-	20		式映 80% Fスト 20%				
	提出物		0						
	その他		0						
履修上の 留意事項	レポー	トを課す	け場合がある。 不	明点に	は、積極的に質	問すること。			
履修主題・	0		履修主題		履修内容				
履修内容	1	外傷約	公論		疫学と外傷システム、受傷機転				
	2	外傷約	公論		外傷の病態生理、JPTEC				
	3	外傷各	5論		頭部外傷、頸	部外傷			
	4	外傷各	5論		脊椎・脊髄外	傷			
	5	外傷各	音論		胸部外傷、腹	三 夏部外傷			
	6	外傷名			骨盤、四肢外	場、皮膚・軟部組	 且織損傷		
	7	外傷名	 S論		小児高齢者外		スポーツ外傷		
	8	外傷名			熱傷				
	9	その他	也の外傷		電撃症・化学				
	10	その他	也の外傷		縊頸・刺咬傷	<u> </u>			

授業科目	外傷各論・小児・高齢者B	担当教員	川島	清志	看護師として救急医療に従事し、
反来行口	外肠白硼、小龙、向取有 D	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		 担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	感染症	と予防が	А		担当教員	石田 浩之	石田 浩之			
対象年次・学期	2年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間		
授業目的		・感染における知識を得る。 ・感染予防について理解し、行動できる基盤を作る。								
到達目標	・感染に対する予防策、安全策について説明ができる。 ・感染症に対する処置を説明できる。									
テキスト・ 参考図書等	・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト ・消防職員のための消毒・滅菌・感染症対策マニュアル									
	評価方法 評価割合(%)					評価基準				
	試験		80							
評価方法・	レポー	۲	0		N=4					
評価基準					式験 80% Fスト 20%					
	提出物 0									
	その他		0							
履修上の 留意事項	感染の			いて学	どぶ。救急隊活	動の中でどのよう	な注意、対策	策が必要かをし		
履修主題・			履修主題			履修[内容			
履修内容	1	感染于	予防策と感染防御		スタンダードプリコーションとは。感染経路の種類と代表的な感染症。					
	2	救急消	舌動での感染防御		手指衛生。手洗いの方法。N95、手袋の着脱について。					
	3	洗浄と	≤消毒		清潔と不潔について。消毒液の種類。滅菌、消毒、洗浄に ついて。					
	4	感染事	事故と事故後の対	応	針刺事故、結核傷病者への対応、感染症法による主な感染 症の分類。					
	5	感染症	 定総論		感染とは何か て。	、ワクチン。救急	急隊としての	感染対策につい		
	6	特異原	感染症		敗血症、結核	え、インフルエン t	ず。			
	7		事と輸入感染症		ノロウィルス 痢、デング煮	、腸管出血性大腸 、等。	易菌、マラリ	ア、細菌性赤		
	8		生感染症、皮膚・ 感染症、その他の		麻疹、風疹、水痘、SSSS、蜂窩織炎、丹毒、破傷風 等。					
	9	性感夠	於症		性交渉による	。 感染症のリスクに	こついて。			
	10	COVI	D-19		新型コロナウィルス関連。					

授業科目	感染症と予防 A	担当 教員	川島	清志	看護師として救急医療に従事し、
1又来作中	⊗未加し 1/例 A	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	感染症	と予防 !	3		担当教員	石田 浩之					
145 F 15 24 HD	o # -	<u> </u>		N /6		V Mz	W /A WL				
対象年次・学期 	2年・前	可期 ————		必但	多・選択区分	必修	単位数 ————				
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間			
授業目的		・感染における知識を得る。 ・感染予防について理解し、行動できる基盤を作る。									
到達目標			る予防策、安全策 する処置を説明で		1て説明ができ	る。					
テキスト・ 参考図書等			版 救急救命士村 亡めの消毒・滅菌			アル					
	評価な	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		80								
評価方法・	レポー	١	0	定期的	式験 80%						
評価基準	小テス	-	20		数記録 80% 忍テスト 20%						
	提出物		0								
	その他		0								
履修上の 留意事項	感染の っかり			いて学	≦ぶ。救急隊活	動の中でどのよう	な注意、対策	策が必要かをし 			
履修主題・	回		履修主題		履修内容						
履修内容	1	感染于	予防策と感染防御		スタンダードプリコーションとは。感染経路の種類と代表 的な感染症。						
	2	救急流	舌動での感染防御		手指衛生。手洗いの方法。N95、手袋の着脱について。						
	3	洗浄と	:消毒		清潔と不潔について。消毒液の種類。滅菌、消毒、洗浄について。						
	4	感染事	事故と事故後の対	応	症の分類。	は 核傷病者への対応		-			
	5	感染症	E総論		感染とは何か て。	、ワクチン。救急	は隊としての	感染対策につい			
	6	特異原				え、インフルエン t					
	7		事と輸入感染症		ノロウィルス 痢、デング煮	、腸管出血性大腸 、等。	諸、マラリ	ア、細菌性赤			
	8		生感染症、皮膚・ 蒸染症、その他の		麻疹 周疹 水痘 9999 蜂窝織炎 丹青 破傷局						
	9	性感染	∖注		性交渉による	感染症のリスクに	こついて。				
	10	COVII	D-19		新型コロナウ	ィルス関連。					

授業科目	感染症と予防 B	担当 教員	川島	清志	看護師として救急医療に従事し、
1文未行日	窓来征し 予切 ロ	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	看護学	既論 A			担当教員	川島	清志				
対象年次・学期	2年・前	前期		必值	冬・選択区分	必修		単位数			
授業形態					授業回数 10 回 時間数 20 時間						
授業目的	・救急医療を行うチームとして存在する看護(師)について理解を深める。 ・看護の実践から 救急救命士として参考にできる事柄について理解を深める。 ・プレホスピタルとインホスピタルの連携について理解を深める。										
到達目標	・救急[る。	・救急医療における看護と救急救命士との連携について自分の考えをまとめ、述べることができ 3。									
テキスト・ 参考図書等		・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト ・配付資料 等									
	評価	方法	評価割合(%)				評価基準				
	試験		0								
評価方法・	レポー		100								
評価基準	小テス	<u> </u>		レボー	- ├ 100%						
	提出物		0								
履修上の 留意事項	救急活る。授	業後にる とがある		レポー な点や	・ト課題を提示 ・疑問点に関し	し、評 ^を ては積	価とする。 極的に質問	授業順番は記し解決する。	講師により前後		
履修主題・			履修主題				履修 層	内容			
履修内容	1	看護と	 :は?		看護学概論、	看護の	歴史、医療	孫倫理			
	2	救急看			精神看護領域	ぱについ	T				
	3	救急看	護		災害看護						
	4	救急看	三 護		ドクターへり	の活動	と役割				
	5	救急看	護		救急救命士と	看護師	iの関連性				
	6	救急看	護		緊急検査項目	の解釈	!/動脈血ガ	スの解釈			
	7	J = :	ュニケーション		観察とコミュ	ニケー	ション				
	8	病院第	習		看護師と救急救命士/トリアージ編						
	9	病院第	習		医療チーム内での救急救命士の役割を理解する						
	10	病院詞	E習		医療チーム内	での救	急救命士σ)役割を理解	する		

担当員 佐藤 希 名議師として救急医係に従事し、 当該科目の教育を行う 対象年次・学期 2年・前期 投業形態 担当員 実務 提勒員 工 工 工 工 工 工 工 工 工 工							
大学期 2年·前期 2年·前期	运 类约日	奉祥	担当 教員	佐藤	希		
大学 1	技業行日	有歧子似神 A	実務 経験	有:		無:	当該科目の教育を行う
接験 担当員 実務 経験 担当員 実務 経動 担	対象年次・学期	2年・前期					
教 東経 担教 東路 担教 東路 担教 東路 知貞 東路 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和	授業形態		実務 経験				
経験 担当員 実経験 担判 実経 担教 実経 担当員 実経 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務			担当 教員				
教員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 理問 其務 理問 其務 理問 其務 理問 其務 理問 其務 理問 其 其 表 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是							
经缺担教 実終 担教 実終 担教 実経 出教 実経 担教 実終 担教 実務 担教 実務 担教 実務 担教 実務 知当員 実務			担当 教員				
教員 実務 担教 実務 担教 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務							
経験 担教 実務 担教 実経験 担教 実務							
教員 実務 担当員 実経 担教 実経 担教 実経 担教 実経 担教 実経 担教 実経 担教 実経 担教 実務							
経験 担對 実務 担当 表務 担当 支務 担当 支務 担当 支務 担当 支務 担当 支務							
教員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務							
経験							
教員 実務 担当 教 上 上 支 大 上 支 大 上 支 大							
経験 担当教員 実務 経験 担当教員 実務 経験 担当教員 実務							
教員 実務 経験 担当 教員 上当 教員 実務 経験			実務 経験				
経験 担当 教員 実務 経験 担当 教員 実務			担当教員				
教員 実務 経験 担当 教員 実務			実務 経験				
経験 担当 教員 実務			担当教員				
教員			実務経験				
			担当教員				
N-1-2/							

授業科目	看護学村	既論 B			担当教員	川島	清志				
対象年次・学期	2年・前	前期		必作	多・選択区分	必修		単位数			
授業形態					授業回数 10 回 時間数 20 時間						
授業目的	・救急医療を行うチームとして存在する看護(師)について理解を深める。 ・看護の実践から 救急救命士として参考にできる事柄について理解を深める。 ・プレホスピタルとインホスピタルの連携について理解を深める。										
到達目標	・救急[る。	・救急医療における看護と救急救命士との連携について自分の考えをまとめ、述べることができ る。									
テキスト・ 参考図書等		・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト ・配付資料 等									
	評価ス	方法	評価割合(%)				評価基準				
	試験		0								
評価方法・	レポー		100								
評価基準	小テス	<u> </u>		レボー	- ├ 100%						
	提出物		0								
履修上の 留意事項	救急活動る。授業すること	業後にそ とがある		レポ- な点や	- ト課題を提示 - 疑問点に関し	し、評 て は 積	価とする。 極的に質問	授業順番は記し解決する。	講師により前後		
履修主題・	回		履修主題				履修P	内容			
履修内容	1	看護と	 :は?		看護学概論、	看護の)歴史、医療	孫倫理			
	2	救急看			精神看護領域	ぱについ	17				
	3	救急看	護		災害看護						
	4	救急看	三 護		ドクターへし	の活動	と役割				
	5	救急看	護		救急救命士と	看護師	の関連性				
	6	救急看	護		緊急検査項目	の解釈	マノ動脈血ガ	スの解釈			
	7	J ミ :	ュニケーション		観察とコミュ	ニケー	・ション				
	8	病院第	習		看護師と救急救命士/トリアージ編						
	9	病院第	習		医療チーム内での救急救命士の役割を理解する						
	10	病院第	習		医療チーム内	療チーム内での救急救命士の役割を理解する					

授業科目	看護学概論 B	担当 教員	佐藤	希		看護師として救急医療に従事し、
5文未行日	有歧子似冊 D	実務 経験	有:		無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当教員				
授業形態		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務経験				

授業科目	救急車	司乗実習	∄ A		担当教員	池田 悠輔					
対象年次・学期	2年・追	鱼年		必何	冬・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	23 🛽	時間数	45 時間			
授業目的		・実際に傷病者と接し、救急現場の状況を肌で感じ、救急救命士としての使命感や社会的意義を強く認識する。									
到達目標		· 消防業務全般、救急現場活動の実体験を通じ、救急救命士としての専門性の能力を養う。 その他詳細は、別途配付の実習要領参照									
テキスト・ 参考図書等											
	評価フ	方法	評価割合(%)		評価基準						
	試験		0								
評価方法・	レポー	۲	0								
評価基準	小テス	۲	0	臨地詞	尾習指導者によ	る実習評価					
	提出物										
	その他		100								
履修上の 留意事項	態度がる	おもわし		実習を行う。実習前オリエンテーションの参加は必須。実習中の服装、 合は実習を中止することがある。 寸の実習要領参照							
履修主題・	回		履修主題			履行	多内容				
履修内容	1	実習前 (6二	ήオリエンテーシ Ιマ)	ョン	消防実習に行く上での心構え、規律、目標について学ぶ						
	2	救急車	国 同乗実習		各消防での臨地実習(2当務または5日勤)						
	3	症例到	巻表 (4コマ)		実習先で経験した事案を学生間で共有						

	T				
授業科目	 救急車同乗実習 A	担当教員	川島清志		看護師として救急医療に従事し、
1又来11口		実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		ハエッス			

授業科目	救急車	司乗実習	∄ B		担当教員	池田 悠輔					
対象年次・学期	2年・追	鱼年		必何	冬・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	23 回	時間数	45 時間			
授業目的		・実際に傷病者と接し、救急現場の状況を肌で感じ、救急救命士としての使命感や社会的意義を強く認識する。									
到達目標		消防業務全般、救急現場活動の実体験を通じ、救急救命士としての専門性の能力を養う。 その他詳細は、別途配付の実習要領参照									
テキスト・ 参考図書等											
	評価フ	方法	評価割合(%)		評価基準						
	試験		0								
評価方法・	レポー	۲	0								
評価基準	小テス	۲	0	臨地詞	尾習指導者によ	る実習評価					
	提出物										
	その他		100								
履修上の 留意事項	態度がる	おもわし		実習を行う。実習前オリエンテーションの参加は必須。実習中の服装、 合は実習を中止することがある。 付の実習要領参照							
履修主題・			履修主題			履修	內容				
履修内容	1	実習前 (6二	ήオリエンテーシ Ιマ)	ョン	消防実習に行く上での心構え、規律、目標について学ぶ						
	2	救急車	国 同乗実習		各消防での臨地実習(2当務または5日勤)						
	3	症例到	巻表(4コマ)		実習先で経験した事案を学生間で共有						

空栄む日	数各市同乘史羽 D	担当教員	川島清志		看護師として救急医療に従事し、
授業科目	救急車同乗実習 B	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	救急病障	院実習/	A		担当教員	川島	清志		
対象年次・学期	2 年・道	五年		必值	多・選択区分	必修		単位数	
授業形態					授業回数	90 回		時間数	180 時間
授業目的	め、メ	ディカノ	した知識を病院全 レコントロールの 旦う医療従事者と	重要性	を確認し、傷	病者に	対する適切		
到達目標	学外臨均	地実習	実習要項参照						
テキスト・ 参考図書等									
	評価フ	方法	評価割合(%)				評価基準		
	試験		0						
評価方法・	試験 レポー	٢	50	・病院	完実習レポート				
評価方法・ 評価基準				・病院	完工習評価表				
A. 1.—1. 51-1	レポー		50	・病院					
A. 1.—1. 51-1	レポー 小テス 提出物 その他	h	50	・病院・病院	完実習評価表 完実習発表会評	価			
A. 1.—1. 51-1	レポー 小テス 提出物 その他 札幌 fr f a ンテージ 実習期間	ト 内の病 あたり ションの 間中の	50	・病院 ・病院 1 に は リエン	完実習評価表 完実習発表会評 ・所、基本的に 開始前のオリコ ・テーションを	価 は合計 ニンテー 修了し	-ションにで ないと病院	て説明をする 実習への参加	。実習前オリエ 加は認めない。
評価基準 履修上の 留意事項	レポー 小テス 提出物 その他 札幌 fr f a ンテージ 実習期間	ト 内の病 あたり ションの 間中の	50 0 50 50 完 1 ヶ所と地方病 り 12 日間。詳細に D参加は必須。オ 留意点はオリエン	・病院 ・病院 1 に は リエン	完実習評価表 完実習発表会評 ・所、基本的に 開始前のオリコ ・テーションを	価 は合計 ニンテー 修了し	-ションにで ないと病院	で説明をする 実習への参加 間中の態度に	。実習前オリエ 加は認めない。
評価基準	レポー 小テス 提出物 その他 札ヶテー第 エン実習中上で	内の病院のたりがあること	50 0 50 0 50 元 1 ヶ所と地方病 方 12 日間。詳細に D参加はオリエン 超意点はオリエン ともある。 履修主題 「オリエンテーシ	・病院 ・病院 1 は 1 リテーシ	完実習評価表 完実習発表会評 ・所、基本的に 開始前のオリコ ・テーションを	は合計 ニンテー 修する。	-ションにで ないと病院 又、実習期 履修P	て説明をする 実習への参加 間中の態度に 内容	。実習前オリエ 加は認めない。 こよっては実習
評価基準 履修上の 留意事項 履修主題・	レポー 小テス 提出物 その他 1 ケテア 第中 上で 回	内の病病がある。 あたりがある。 あたりがいる。 いかでは、 はいでは、 もいでは、 もいでは、 もいでは、 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。	50 0 50 0 50 元 1 ヶ所と地方病 方 12 日間。詳細に D参加はオリエン 超意点はオリエン ともある。 履修主題 「オリエンテーシ	・病院 ・病院 1 は 1 リテーシ	記実習評価表 記実習発表会評 所、基本的に 開始前のオリコ アーションを アョンで説明を	は合計 こンテー 修する。 弱前の諸	・ションにでないと病院 又、実習期 履修の	に説明をする 実習への参加 間中の態度に 内容 悪設定、事前	。実習前オリエ 加は認めない。 こよっては実習

授業科目	 救急病院実習 A	担当 教員	池田	悠輔	救急救命士として、当該科目の教
1文末1十口		実務 経験	有:	無:	育を行う
対象年次・学期	2年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	救急病院	院実習 B			担当教員	川島	清志			
対象年次・学期	2年・通	年		必何	と 選択区分	必修		単位数		
授業形態					授業回数	90 回		時間数	180 時間	
授業目的	め、メデ	・学内で習得した知識を病院全救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけるため、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な態度を養い、医師とともに救急領域を担う医療従事者としての自覚と責任感を育む。								
到達目標	学外臨地	学外臨地実習 実習要項参照								
テキスト・ 参考図書等										
	評価方	法	評価割合(%)				評価基準			
	試験		0							
評価方法・	レポート	,	50	・病院	・病院実習レポート					
評価基準	小テスト	`	0		・病院実習評価表 ・病院実習発表会評価					
	提出物			・病院	元美省発表会評	1四				
	その他		50							
履修上の 留意事項	1 ヶ所あ ンテーシ 実習期間	たり約 /ョンの 間中の質] 12 日間。詳細に D参加は必須。オ	病院 1 ヶ所、基本的には合計 2 ヶ所の病院実習を予定。実習期間は 間は実習開始前のオリエンテーションにて説明をする。実習前オリエ オリエンテーションを修了しないと病院実習への参加は認めない。 ンテーションで説明をする。又、実習期間中の態度によっては実習						
履修主題・			履修主題				履修P	内容		
履修内容	1	実習前 (8二	前オリエンテーシ Ⅰマ)	ョン	ン 学外臨地実習前の諸注意や目標設定、事前実習等					
	2	学外贸	品地実習		各病院で学外臨地実習(24 日間)					
	3	症例到	巻表会(8コマ)		各病院で経験した事案をもとに事例検討会実施					

授業科目	救急病院実習 B	担当 教員	池田	悠輔	救急救命士として、当該科目の教
1又未行口		実務 経験	有:	無:	育を行う
対象年次・学期	2年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

								1	
授業科目	救急病療	態生理等	Ź A		担当教員	田中則之			
対象年次・学期	2 年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的	・症状による病態・重症度判定を知り、救急処置に役立てる。								
到達目標	・症状、	・症状、所見から必要な救急処置、病態鑑別ができる。							
テキスト・ 参考図書等	・改訂 第 10 版 救急救命士標準テキスト ・配付資料 等								
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		70						
評価方法・	レポー	٢	0	⇔# #=	ポミ仝 フ の0/				
評価基準	小テス	٢	30		試験 70% 試験 30%				
	提出物		0						
	その他		0						
履修上の 留意事項			Pに設けている。 質問すること。	試験♂)成績が悪い場	合は、レポートを	:課する場合/	がある。不明点	
履修主題・	回		履修主題		履修内容				
履修内容	1	意識隨	害		意識障害の原因と代表的な疾患について				
	2	頭痛			頭痛の発症機序と分類 緊急度重症度の判断				
	3	痙攣			痙攣とてんかんの違い 痙攣の種類について				
	4	運動麻	末 痺		運動麻痺とは 種類と機序について 運動麻痺の原因疾患				
	5	めまい	1		めまいとは 発生機序 分類と随伴症状				
	6	呼吸团	3難		呼吸困難の定義 呼吸困難の種類と原因疾患				
	7	喀血			喀血とは 喀血を伴う疾患の種類				
	8	一過性	生意識消失と失補	1	一過性脳虚血発作と失神の違い 原因と種類について				
	9	胸痛			胸痛の原因疾患と部位について 重症度緊急度				
	10	動悸			動悸とは、発生機序、原因疾患について				
	11	腹痛			腹痛の発生機		こついて 部	 位別の疾患	
	12	吐血·	下血		吐血・下血とは 原因疾患について 喀血との鑑別				
	13	腰痛・背部痛			腰痛・背部痛の定義 緊急度重症度 部位別の疾患について				
	14	体温」			体温上昇の機序と疾患				
	15	まとぬ			実践問題演習と解説				

授業科目	救急病態生理学 A	担当 教員	田中	則之	救急救命士として救急医療に従
5文未行日	权忌俩感主连子 A	実務 経験	有:	無:	事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	救急病態生理	放急病態生理学 B			田中則之			
対象年次・学期	2年・前期		必修	・選択区分	必修	単位数		
授業形態				授業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的	・症状による病態・重症度判定を知り、救急処置に役立てる。							
到達目標	・症状、所見から必要な救急処置、病態鑑別ができる。							
テキスト・ 参考図書等	・改訂 第 1 ・配付資料	1 版 教急救命士 等	標準テ	キスト				
	評価方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験	70						
評価方法・ 評価基準	レポート	0	定期記	北験 70%				
可順坐十	サラスト 提出物	30	確認試	忧験 30%				
	その他	0						
履修上の 留意事項		ー 中に設けている。 質問すること。	試験の	成績が悪い場	合は、レポートを	課する場合が	がある。不明点	
履修主題・	回	履修主題		履修内容				
履修内容	1 意識	<u></u> 障害		意識障害の原因と代表的な疾患について				
	2 頭痛			頭痛の発症機序と分類 緊急度重症度の判断				
	3 痙攣			痙攣とてんかんの違い 痙攣の種類について				
	4 運動	麻痺		運動麻痺とは 種類と機序について 運動麻痺の原因疾患				
	5 めま	l I		めまいとは 発生機序 分類と随伴症状				
	6 呼吸	困難		呼吸困難の定義 呼吸困難の種類と原因疾患				
	7 喀血			喀血とは 喀血を伴う疾患の種類				
	8 一過	性意識消失と失神	1	一過性脳虚血発作と失神の違い 原因と種類について				
	9 胸痛			胸痛の原因疾患と部位について 重症度緊急度				
	10 動悸			動悸とは 発	5生機序 原因疾患	まについて		
	11 腹痛			腹痛の発生機序 腹痛の種類について 部位別の疾患				
	12 吐血	・下血		<u> </u>	は 原因疾患につ			
	13 腰痛	・背部痛		腰痛・背部痛の定義 緊急度重症度 部位別の疾患について				
	14 体温	 上昇		体温上昇の機序と疾患				
	15 まと	め		実践問題演習	2と解説			

授業科目	救急病態生理学 B	担当 教員	田中	則之	救急救命士として救急医療に従
1文末行口	权志M恕王珪子 D	実務 経験	有:	無:	事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	教養A				担当教員	工藤 哲也				
								Ι		
対象年次・学期	2年・復	 美期		必值	多・選択区分 	必修	単位数			
授業形態					授業回数	30 回	時間数	60 時間		
授業目的	・教養 で学んだことをベースに、公務員試験や就職試験の一般知能分野を効果的に解答するための問題演習を行う。基礎分野の復習から実践レベルの問題へと解答テクニックの幅を広げる。									
到達目標	・過去問ベースの問題を各自独力で解答を導き出すことができる。									
テキスト・ 参考図書等	・絶対だ	合格シ!	ノーズ 各分野							
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		70							
評価方法・	レポー	-	0		式験 70%					
評価基準	小テス		10		スト 10% 7 20%					
	提出物		20	3~ 11	, _0 / 0					
履修上の 留意事項	様々なが題を解れて、適	答するこ 官宿題を が試され	 	 開していく。類題の解法は数多くは実施しない。各人が反復して問 じめて自分の力となる。家庭での復習が実力定着のカギとなるの 認テストを実施する。(単元の評価にも関与する)知能は文字通り知 、決して難問ではない。何事にも柔軟な発想であきらめずにチャレ						
履修主題・	回		履修主題		履修内容					
履修内容	1	数的推	達理 (阿部)		SPI 対策①					
	2	判断推	建理 (工藤)		うそつき					
	3	数的推	達理 (阿部)		SPI 対策②					
	4	判断推	建理 (工藤)		うそつき					
	5	数的推	建理 (阿部)		SPI 対策					
	6	判断推	建理 (工藤)		順序関係					
	7	数的推	性理 (阿部)		流水算					
	8	判断推	建理 (工藤)		順序関係					
	9	数的推	建理 (阿部)		流水算					
	10	判断推	建理 (工藤)		順序関係					
	11	数的推	性理 (阿部)		時計算					
	12	判断推	建理 (工藤)		位置・方位					
	13	数的推	建理 (阿部)		ニュートン第	<u> </u>				
	14	判断推	建理 (工藤)		位置・方位					
	15	数的推	建理 (阿部)		ニュートン第	Į.				
	16	判断推	建理 (工藤)		位置・方位					
	17	数的推	建理 (阿部)		仕事算					
	18	判断推	建理 (工藤)		位置・方位					
	19	数的推	建理 (阿部)		仕事算					
	20	空間抵	巴握 (工藤)		暗号					
	21	数的推	生理 (阿部)		三角形と多角	部				

22	判断推理 (工藤)	暗号
23	数的推理 (輕部)	三角形と多角形
24	判断推理 (工藤)	手順
25	数的推理 (阿部)	円
26	判断推理 (工藤)	暦・カレンダー
27	数的推理 (阿部)	円
28	判断推理 (工藤)	数量推理
29	数的推理 (阿部)	面積 (三角形)
30	判断推理 (工藤)	まとめ

担当 教員 授業科目 教養 A	
実務 経験 有: 無	:
対象年次・学期 2年・後期 教員	
授業形態 実務 経験	
担当 教員	
実務経験	
担当教員	
実務経験	
担当教員	
実務経験	
担当教員	
実務 経験	
担当教員	
実務経験	
担当教員	
実務経験	
担当教員	
実務 経験	
担当教員	
実務 経験	
担当 教員	
実務経験	

to Mean E	+11_++	_			+0.1/.**- E	+c.i.				
授業科目	教養[3			担当教員 	工藤 哲也				
対象年次・学期	2年・			必值	逐・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	30 回	時間数	60 時間		
授業目的	・教養 で学んだことをベースに、公務員試験や就職試験の一般知能分野を効果的に解答するための問題演習を行う。基礎分野の復習から実践レベルの問題へと解答テクニックの幅を広げる。									
到達目標	・過去問ベースの問題を各自独力で解答を導き出すことができる。									
テキスト・ 参考図書等	・絶対1	合格シリ	ノーズ 各分野							
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		70							
評価方法・	レポー		0		t験 70%					
評価基準	小テス	<u> </u>	10	小テス 提出物	スト 10% 7 20%					
	提出物		20	JAC LLL 17	, 20 70					
履修上の 留意事項	題を解るで、適	答する? 宜宿題? が試され	 	 開していく。類題の解法は数多くは実施しない。各人が反復して問 じめて自分の力となる。家庭での復習が実力定着のカギとなるの 認テストを実施する。(単元の評価にも関与する)知能は文字通り知 、決して難問ではない。何事にも柔軟な発想であきらめずにチャレ						
履修主題・	回		履修主題		履修内容					
履修内容	1	数的推	達理 (阿部)		SPI 対策①					
	2	判断拍	建理 (工藤)		うそつき					
	3	数的推	達理 (阿部)		SPI 対策②					
	4	判断拍	建理 (工藤)		うそつき					
	5	数的推	建理 (阿部)		SPI 対策					
	6	判断拍	建理 (工藤)		順序関係					
	7	数的推	性理 (阿部)		流水算					
	8	判断拍	建理 (工藤)		順序関係					
	9	数的推	建理 (阿部)		流水算					
	10	判断拍	建理 (工藤)		順序関係					
	11	数的推	建理 (阿部)		時計算					
	12	判断拍	建理 (工藤)		位置・方位					
	13	数的推	建理 (阿部)		ニュートン第	I				
	14	判断拍	建理 (工藤)		位置・方位					
	15	数的推	建理 (阿部)		ニュートン第	Ī				
	16	判断拍	建理 (工藤)		位置・方位					
	17 数的推理 (阿部)				仕事算					
	18	判断拍	建理 (工藤)		位置・方位					
	19	数的推	建理 (阿部)		仕事算					
	20	空間扣	巴握 (工藤)		暗号					
	21	数的推	建理 (阿部)		三角形と多角	那				
	L									

22	判断推理 (工藤)	暗号
23	数的推理 (輕部)	三角形と多角形
24	判断推理 (工藤)	手順
25	数的推理 (阿部)	円
26	判断推理 (工藤)	暦・カレンダー
27	数的推理 (阿部)	円
28	判断推理 (工藤)	数量推理
29	数的推理 (阿部)	面積 (三角形)
30	判断推理 (工藤)	まとめ

授業科目	教養 B	担当教員	阿部幸雄		
1XX17 L	7AR D	実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	2年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	筋骨格	・皮膚	・感覚器疾患 A		担当教員	師井 邦竹				
対象年次・学期	2年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間		
授業目的	・救急を	救命士に	こ必要な感覚器・	口腔・	整形外科系疾	患を理解する。				
到達目標	・感覚	器・口朋	空・整形外科系疫	患に関	打する病態生理	とそれに対する救	命処置につい	ハて説明ができ		
テキスト・ 参考図書等	・改訂	・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト								
	評価な	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80							
評価方法・	レポー		0	定期額	式験 80%					
評価基準	小テス	-	20		テスト 20%					
	提出物		0							
	その他		0							
履修上の 留意事項	レポー	トを課す	す場合がある。不	明点に	は、積極的に質	問すること。				
履修主題・			履修主題		履修内容					
履修内容	1	筋・骨	骨格系疾患		疾患の理解に必要な基礎知識					
	2	筋・骨	骨格系疾患の理解	2	 脊椎疾患					
	3	筋・骨	骨格系疾患の理解	2	関節疾患、筋					
	4	皮膚疫			疾患の理解に	必要な基礎知識				
	5	皮膚疫	実患の理解		皮膚・軟部組		/ギー性疾患			
	6	歯・口	口腔系疾患		疾患の理解に な疾患	必要な基礎知識、	主な疾患と	観察・判断、主		
	7	歯・口	コ腔系疾患の理解	2	骨髓炎、扁桃周囲炎、顎関節脱臼					
	8	眼の犯	失患		視覚に関する解剖生理、主な疾患					
	9	まとめ	か 筋・骨格系疾	患	総合問題演習	【、解説				
	10	まと 疾患	b 皮膚・感覚□	腔系	総合問題演習	【、解説				

授業科目	筋骨格・皮膚・感覚器疾患 A	担当 教員	師井邦竹		医師として救急医療に従事し、当
技未行口	加目伯・ 反肩・心見命伏芯 A	実務 経験	有:	無:	該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	筋骨格	・皮膚	・感覚器疾患 B		担当教員	師井 邦竹				
対象年次・学期	2年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間		
授業目的	・救急	敗命士(こ必要な感覚器・	口腔・	整形外科系疾	患を理解する。				
到達目標	・感覚 る。	器・口朋	空・整形外科系疾	患に関	間する病態生理	とそれに対する救	命処置につい	ハて説明ができ		
テキスト・ 参考図書等	・改訂	・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト								
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80							
評価方法・	レポー	١-	0	÷₩ŧ	E期試験 80%					
評価基準	小テス	١-	20		式映 60% Fスト 20%					
	提出物		0							
	その他		0							
履修上の 留意事項	レポー	トを課す	す場合がある。不	明点に	は、積極的に質	問すること。				
履修主題・	回		履修主題		履修内容					
履修内容	1	筋・骨	骨格系疾患		疾患の理解に必要な基礎知識					
	2	筋・骨	骨格系疾患の理解							
	3	筋・骨	骨格系疾患の理解		関節疾患、筋	 防疾患				
	4	皮膚症	美患		疾患の理解に	必要な基礎知識				
	5	皮膚症	実患の理解		皮膚・軟部組	織感染症、アレル	/ギー性疾患			
	6	歯・口	口腔系疾患		疾患の理解に な疾患	必要な基礎知識、	主な疾患と	観察・判断、主		
	7	歯・口	口腔系疾患の理解		骨髓炎、扁桃周囲炎、顎関節脱臼					
	8	眼の犯	美患		視覚に関する解剖生理、主な疾患					
	9	まとめ	か 筋・骨格系疾	患	総合問題演習、解説					
	10	まと 疾患	ウ 皮膚・感覚口	腔系	総合問題演習	【、解説				

授業科目	筋骨格・皮膚・感覚器疾患 B	担当 教員	師井邦竹		医師として救急医療に従事し、当
1又未代口	別月伯・汉肩・芯見硆伏志 ロ	実務 経験	有:	無:	該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	血液・	为分泌·	・代謝性疾患 A		担当教員	石田 浩之				
対象年次・学期	2 年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間		
授業目的	・救急を	換命士は	こ必要な内分泌・	代謝・	泌尿器・血液	・免疫系疾患を理	解する。			
到達目標	・内分	必、代記	$ ext{谢、泌尿器疾患\sigma$	ある傷		ができる。				
テキスト・ 参考図書等		・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト・配付資料 等								
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80							
評価方法・	レポー	١-	0	空地的	用試験 80%					
評価基準	小テス	۲	20		スト 20%					
	提出物		0							
履修上の 留意事項	その他 レポー	トを課す	0 す場合がある。不	明点に	は、積極的に質	問すること。				
履修主題・	回						 内容			
履修内容	1	内分泌	 必・栄養系		疾患の理解に	 必要な基礎知識、	観察と判断	、緊急度判定		
	2	疾患の	 D理解		甲状腺機能亢		 比低下症、副	 腎機能異常		
	3	疾患の	 D理解		肥満、るいそ	う、ビタミン欠乏	 乏症			
	4	代謝系	系疾患		疾患の理解に	必要な基礎知識、	観察と判断	、緊急度判定		
	5	疾患の	D理解		糖尿病、低血	1糖				
	6	疾患の			その他の代謝]異常				
	7	加液・免疫系疾患 疾患の理解に必要な基礎知識、観察と判断、緊急度判別								
	8	疾患の	D理解							
	9	疾患の	D理解		免疫系疾患、アナフィラキシー					
	10	まとぬ	b		総合問題演習	解説				

授業科目	血液・内分泌・代謝性疾患 A	担当 教員	川島清志		看護師として救急医療に従事し、
1文未作口	一次・内別は大志ス	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	血液・	为分泌	· 代謝性疾患 B		担当教員	石田 浩之				
対象年次・学期	2 年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間		
授業目的	・救急を	敗命士に	こ必要な内分泌・	代謝・	泌尿器・血液	・免疫系疾患を理	解する。			
到達目標	・内分	必、代記	射、泌尿器疾患 <i>の</i>	ある傷		ができる。				
テキスト・ 参考図書等		・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト・配付資料 等								
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80							
評価方法・	レポー	١-	0	空地的	月試験 80%					
評価基準	小テス	١-	20		スト 20%					
	提出物		0							
	その他		0							
留意事項	レポー 	トを課す	す場合がある 。不	明点に	は、積極的に質	問すること。				
履修主題・	回		履修主題		履修内容					
履修内容	1	内分泌	※・栄養系		疾患の理解に必要な基礎知識、観察と判断、緊急度判定					
	2	疾患の	D理解		甲状腺機能亢	進症、甲状腺機能	上低下症、副	腎機能異常		
	3	疾患の	D理解		肥満、るいそ	う、ビタミン欠る	 乏症			
	4	代謝系	系疾患		疾患の理解に	必要な基礎知識、	観察と判断	、緊急度判定		
	5	疾患の	D理解		糖尿病、低血	1糖				
	6	疾患の	 D理解		その他の代謝	担常				
	7	血液・免疫系疾患 疾患の理解に必要な基礎知識、観察と判断、緊								
	8	疾患の	D理解							
	9	疾患の	D理解		免疫系疾患、アナフィラキシー					
	10	まとめ	b		総合問題演習	解説				

授業科目	血液・内分泌・代謝性疾患 B	担当 教員	川島清志		看護師として救急医療に従事し、
収集作品	血液、内力/20、1C的压决志 B	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	呼吸器	・循環器	器系疾患 A		担当教員	陰山 研				
対象年次・学期	2年・前	前期		必值	と 選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間		
授業目的	・救急を	敗命士に	こ必要な呼吸器・	循環器	系疾患を理解	する。				
到達目標	・授業 ⁻	・授業で習った内容を活用し、病態鑑別、救急処置が行える。								
テキスト・ 参考図書等	・改訂	対訂 第 10 版 救急救命士標準テキスト								
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80							
評価方法・	レポー	۲	0	定期的	北験 80%					
評価基準	小テス	-	20		- スト 20%					
	提出物		0							
	その他		0							
履修上の 留意事項			Nての授業。配布 積極的に質問す			自ノートをとり授	業をまとめる	るようにするこ		
履修主題・	回		履修主題			履修四	内容			
履修内容	1	循環器			心臓の生理と基礎					
	2	循環器	 器疾患各論		心不全、高血	1圧				
	3	循環器	居疾患各論		虚血性心疾患	. 他				
	4	循環器	 B疾患各論		不整脈 他					
	5	呼吸器			総論					
	6	呼吸器	 器疾患各論		気管支喘息、	COPD、 他				
	7	呼吸器	 器疾患各論		肺炎、肺がん					
	8	症例	列 循環器、呼吸器疾患症例							
	9	症例			循環器、呼吸器疾患症例					
	10	まとめ	<u> </u>		総合問題演習					
	l .	1000000000000000000000000000000000000								

授業科目	呼吸器・循環器系疾患 A	担当 教員	川島	清志	看護師として救急医療に従事し、
IXXIII		実務経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		 担当 教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		3/			

授業科目	呼吸器	・循環	器系疾患 B		担当教員	陰山研				
対象年次・学期	2年・前	 前期		必修	・選択区分	必修	単位数			
授業形態				:	授業回数	10 回	時間数	20 時間		
授業目的	・救急を	救命士に	こ必要な呼吸器・	循環器	系疾患を理解	する。				
到達目標	・授業 ⁻	・授業で習った内容を活用し、病態鑑別、救急処置が行える。								
テキスト・ 参考図書等	・改訂	牧訂 第 10 版 救急救命士標準テキスト								
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80							
評価方法・	レポー	١-	0	中押軸	·期試験 80%					
評価基準	小テス	١-	20		- スト 20%					
	提出物		0							
	その他		0							
履修上の 留意事項			Nての授業。配布 積極的に質問す			自ノートをとり授	業をまとめる	るようにするこ		
覆修主題・			履修主題			履修四	内容			
履修内容	1	循環器			心臓の生理と基礎					
	2	循環器	 器疾患各論		心不全、高血	1圧				
	3	循環器	居疾患各論		虚血性心疾患	. 他				
	4	循環器	B疾患各論		不整脈 他					
	5	呼吸器	B疾患		総論					
	6	呼吸器	 器疾患各論		気管支喘息、	COPD、 他				
	7	呼吸器	 器疾患各論		肺炎、肺がん	 /、肺結核				
	8	症例								
	9	症例			循環器、呼吸器疾患症例 循環器、呼吸器疾患症例					
	10	まとめ	<u> </u>		総合問題演習					
		※6日四庭次日								

授業科目	呼吸器・循環器系疾患 B	担当 教員	川島	清志		看護師として救急医療に従事し、
1X X 11D	1700日 旧水日水八八心口	実務 経験	有:	無	:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員				
授業形態		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務経験				
		担当 教員				
		実務経験				
		経験				

授業科目	産婦人種	科疾患,	4		担当教員	佐藤 真紀子						
対象年次・学期	2年・前	前期		必何	冬・選択区分	必修	単位数					
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間				
授業目的	・正常	・正常分娩と異常分娩について理解する。・婦人科特有の病態について理解する。										
到達目標	・症状、	定状、所見から病態を鑑別し、適切な救急処置が行える。										
テキスト・ 参考図書等		・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト ・配付資料 等										
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準						
	試験		80									
評価方法・	レポー		0	定批的	期試験 80%							
評価基準	小テス	<u> </u>	20		Fスト 20%							
	提出物		0									
履修上の 留意事項	その他 レポー	トを課す	0 け場合がある。不	明点に	は、積極的に質	問すること。						
履修主題・	回		履修主題		履修内容							
履修大容	1	産婦ノ	人科基礎		産婦人科系解 過	沿生理、性機能、	ホルモン、	妊娠の成立と経				
	2	産婦人	 人科基礎		母体と胎児の)変化						
	3	産婦人	人科基礎		産科に関する	統計と生じている	5問題					
	4	妊娠中	中の異常		子宮外妊娠、	早産、流産、胞料	犬奇胎、妊娠	高血圧、他				
	5	分娩			正常分娩の紹	 退、正常分娩第	期~第 期					
	6	分娩			呼吸法、異常	5分娩(破水、過3	鱼 库痛、子宫	破裂)				
	7	分娩の	ウケア等		介助方法 (実習)						
	8	分娩の	ウケア等		介助方法 (実習)							
	9	異常產	译 辱		子宮内反、異常出血、shock、DIC、産褥期の異状							
	10	まとめ	<u> </u>		実践問題演習	 【、解説		実践問題演習、解説				

授業科目	産婦人科疾患 A	担当 教員	池田悠輔		救急救命士として、当該科目の教
1文未行口	连姊八代 沃 志 X	実務 経験	有:	無:	育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	産婦人種	科疾患!	3		担当教員	佐藤 真紀子				
対象年次・学期	2年・前	前期		必何	冬・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間		
授業目的	・正常	・正常分娩と異常分娩について理解する。・婦人科特有の病態について理解する。								
到達目標	・症状、	定状、所見から病態を鑑別し、適切な救急処置が行える。								
テキスト・ 参考図書等		・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト ・配付資料 等								
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80							
評価方法・	レポー		0	定批的	期試験 80%					
評価基準	小テス	<u> </u>	20		Fスト 20%					
	提出物		0							
履修上の 留意事項	その他 レポー	トを課す	0 け場合がある。不	明点に	は、積極的に質	問すること。				
履修主題・	回		履修主題		履修内容					
履修大容	1	産婦ノ	人科基礎		産婦人科系解 過	?剖生理、性機能、	ホルモン、	妊娠の成立と経		
	2	産婦人	 人科基礎		母体と胎児の	変化				
	3	産婦人	人科基礎		産科に関する	統計と生じている	5問題			
	4	妊娠中	中の異常		子宮外妊娠、	早産、流産、胞料	犬奇胎、妊娠	高血圧、他		
	5	分娩			正常分娩の紹	過、正常分娩第	期~第 期			
	6	分娩			呼吸法、異常	分娩(破水、過弦	鱼 鱼陣痛、子宫	破裂)		
	7	分娩の	ウケア等		介助方法 (実習)				
	8	分娩の	ウケア等		介助方法 (実習)					
	9	異常產	译 辱		子宮内反、異常出血、shock、DIC、産褥期の異状					
	10	まとめ	<u> </u>		実践問題演習、解説					

授業科目	産婦人科疾患 B	担当 教員	池田悠輔		救急救命士として、当該科目の教
1又未11口	庄 师八竹八 龙 U	実務 経験	有:	無:	育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

対象年次・学期 2年・前期 必修・選択区分 必修 単位数 接業回数 10回 時間数 20時間 接業回数 10回 時間数 20時間 接業回数 10回 時間数 20時間 20時間 接業回数 10回 時間数 20時間 20	授業科目	小児・新	\児・新生児・高齢者疾患 A			担当教員	長谷山 圭司					
接業目的	 対象年次・学期	2年・前	 前期		必但		必修	単位数				
到達目標 ・成人期以外の発達段階における特徴を理解する。・新生児、小児に特有の疾患を理解する。・高齢者に特有の疾患を理解する。・ が新生児、小児に特有の疾患を理解する。・ が新生児、小児に特有の疾患を理解する。・ が新生児、小児に特有の疾患を理解する。・ が新生児、小児に特有の疾患を理解する。・ が新生児の解剖生理 疾患の理解に必要な基礎知識 小児のおもな疾患と観察・判断 新生児の救急疾患 が生児・小児の心肺蘇生理論 新生児の心肺蘇生理論 所能者の救急 疾患の理解に必要な基礎知識 が見のおもな疾患と観察・判断 がま児のが助きな疾患と観察・判断 がま児のが助きな疾患と観察・判断 がま児のが助きな疾患と観察・判断 がま児のが助きな疾患と観察・判断 がま児の心肺蘇生理論 疾患の理解に必要な基礎知識 がまたのがある。 がまたの変な基礎知識 がまたのがある。 がまたのが、対していたの心が、対していたの心が、対していたの心が、対していたの心が、対していたの心が、対していたの心が、対していたの心が、対していたの心が、対していたの心が、対していたの心が、対していたの心が、対していたの心が、対していたの心が、対していたの心が、対していたの心が、対していたのが、対していたの心が、対していたのが、対していたのが、対していたのが、対していたのが、対していたの心が、対していたの心が、対していたのが、対していたのが、対していたのが、対していたのが、対していたのが、対していたのが、対していたのが、対していたのが、対していたのが、対していたのが、対していたのが、対していたのが、対していたのが、対していたのが、対しな、が、対していたのが、対しな、が、対していたのが、対していたのが、対しな、が、が、対しな、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が	授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間			
おいます	授業目的	・成人類	・成人期以外の発育について学び、救急活動での現場診断に役立てる。									
・ 次記 第 11 版	到達目標											
試験 80		・改訂	第 11	版 救急救命士	標準テ	キスト						
評価方法・		評価が	方法	評価割合(%)			評価基準					
記事価基準		試験		80								
RTIME	A. 1	レポー	١-	0	中地	+E 0004						
その他 0	評価基準	小テス	١-	20								
履修上の 日本		提出物		0								
図意事項		その他		0								
1		レポー	トを課す	する場合がある。	不明点	は、積極的に	質問すること。					
2 小児の救急疾患 小児のおもな疾患と観察・判断 3 小児の救急疾患 小児のおもな疾患と観察・判断 4 新生児の救急疾患 新生児のおもな疾患と観察・判断 5 小児・新生児の心肺蘇生 新生児・小児の心肺蘇生理論 6 高齢者の救急 疾患の理解に必要な基礎知識 7 高齢者の救急 おもな疾患と観察・判断 8 高齢者の救急 おもな疾患と観察・判断 9 高齢者の救急 地域医療について	履修主題・	0		履修主題			履修内容					
3 小児の救急疾患 小児のおもな疾患と観察・判断 4 新生児の救急疾患 新生児のおもな疾患と観察・判断 5 小児・新生児の心肺蘇生 新生児・小児の心肺蘇生理論 6 高齢者の救急 疾患の理解に必要な基礎知識 7 高齢者の救急 おもな疾患と観察・判断 8 高齢者の救急 おもな疾患と観察・判断 9 高齢者の救急 地域医療について	履修内容	1	小児・	・新生児の解剖生	理	疾患の理解に必要な基礎知識						
4 新生児の救急疾患 新生児のおもな疾患と観察・判断 5 小児・新生児の心肺蘇生 新生児・小児の心肺蘇生理論 6 高齢者の救急 疾患の理解に必要な基礎知識 7 高齢者の救急 おもな疾患と観察・判断 8 高齢者の救急 おもな疾患と観察・判断 9 高齢者の救急 地域医療について		2	小児の	D救急疾患		小児のおもな	疾患と観察・判断	ŕ				
5 小児・新生児の心肺蘇生 新生児・小児の心肺蘇生理論 6 高齢者の救急 疾患の理解に必要な基礎知識 7 高齢者の救急 おもな疾患と観察・判断 8 高齢者の救急 おもな疾患と観察・判断 9 高齢者の救急 地域医療について		3	小児の	D救急疾患		小児のおもな	疾患と観察・判断	Ť				
6 高齢者の救急 疾患の理解に必要な基礎知識 7 高齢者の救急 おもな疾患と観察・判断 8 高齢者の救急 おもな疾患と観察・判断 9 高齢者の救急 地域医療について		4	新生児			新生児のおも	な疾患と観察・判	 刂断				
7 高齢者の救急 おもな疾患と観察・判断 8 高齢者の救急 おもな疾患と観察・判断 9 高齢者の救急 地域医療について		5	小児	・新生児の心肺蘇	生	新生児・小児	の心肺蘇生理論					
8 高齢者の救急 おもな疾患と観察・判断 9 高齢者の救急 地域医療について		6	高齢者	 ・		疾患の理解に	必要な基礎知識					
9 高齢者の救急 地域医療について		7	高齢者	 舌の救急		おもな疾患と	 :観察・判断					
		8	高齢者	 舌の救急		おもな疾患と						
10 まとめ 総合問題演習 解説		9	高齢者	 香の救急		地域医療につ	いて	, , , , , ,				
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		10	まとめ	b		総合問題演習	 【、解説					

授業科目	小児・新生児・高齢者疾患 A	担当 教員	川島	清志	看護師として救急医療に従事し、
1文未行口	小儿·别王儿·同歌自伏志 K	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	小児・新	新生児	・高齢者疾患 B		担当教員	長谷山 圭司					
117 F.V. 2440	- - -	£#n		N 6		\	W 12 Mt				
対象年次・学期 	2年・前	可期		必但	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間			
授業目的	・成人類	・成人期以外の発育について学び、救急活動での現場診断に役立てる。									
到達目標		・成人期以外の発達段階における特徴を理解する。 ・新生児、小児に特有の疾患を理解する。 ・高齢者に特有の疾患を理解する。									
テキスト・ 参考図書等	・改訂	・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト									
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		80								
評価方法・	レポー	ポート 0		中地台	式験 80%						
評価基準	小テス	-	20		式映 80% Fスト 20%						
	提出物		0								
	その他		0								
履修上の 留意事項	レポー	トを課す	する場合がある。	不明点	は、積極的に	質問すること。					
履修主題・	回		履修主題			履修内容					
履修内容	1	小児·	・新生児の解剖生	理	疾患の理解に必要な基礎知識						
	2	小児の	D救急疾患		小児のおもな	疾患と観察・判断	f				
	3	小児の	D救急疾患		小児のおもな	疾患と観察・判断	f				
	4	新生児	見の救急疾患		新生児のおも	な疾患と観察・判	刂断				
	5	小児·	・新生児の心肺蘇	生	新生児・小児	の心肺蘇生理論					
	6	高齢者	 香の救急		疾患の理解に	必要な基礎知識					
	7	高齢者	 香の救急		おもな疾患と	:観察・判断					
	8	高齢者	 香の救急		おもな疾患と						
		- * * -	z n #h #		地域医療につ) T	-				
	9	高齢者の救急 地域医療について									

授業科目	小児・新生児・高齢者疾患 B	担当教員	川島	清志	看護師として救急医療に従事し、
1文未代口	小儿:别土儿:同歌自沃志 D	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	消化器	・泌尿器	器系疾患 A		担当教員	田口 大					
対象年次・学期	2年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間			
授業目的	・救急を	救急救命士に必要な消化器系疾患を理解する。									
到達目標	・症状、	症状、所見から消化器疾患の病態鑑別ができ、説明ができる。									
テキスト・ 参考図書等		・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト ・配付資料 等									
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		80								
評価方法・	レポー	١-	0	中無≐	式験 80%						
評価基準	小テス	١-	20		ス級 80%						
	提出物		0								
履修上の 留意事項	その他 レポー	トを課す	0 す場合がある。不	明点に	は、積極的に質	問すること。					
履修主題・	回		履修主題		履修内容						
履修内容	1	疾患の	 D理解		腎臓の疾患、	 尿路の疾患					
	2	疾患の	 D理解		男性生殖器の		 器の疾患				
	3	観察と	:判断		泌尿器系疾患	の主要症候					
	4	観察と	こ判断		消化器系疾患	の主要症候					
	5	泌尿	・生殖系解剖		疾患の理解に	こ必要な基礎知識、	観察と判断	、緊急度判定			
	6	消化器			疾患の理解に	必要な基礎知識、	観察と判断	、緊急度判定			
	7	主な犯	集患		食道疾患						
	8	主な犯	笑患		胃・十二指腸疾患						
	9	主な犯	美患		腸疾患						
	10	主な犯			肝臓・胆道・	膵臓の疾患					

授業科目	消化器・泌尿器系疾患 A	担当教員	川島	清志		看護師として救急医療に従事し、
1支来1十口		実務 経験	有:	Ħ	棋 :	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員				
授業形態		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				

授業科目	消化器	・泌尿器	器系疾患 B		担当教員	田口 大					
対象年次・学期	2年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間			
授業目的	・救急を	救急救命士に必要な消化器系疾患を理解する。									
到達目標	・症状、	定状、所見から消化器疾患の病態鑑別ができ、説明ができる。									
テキスト・ 参考図書等		・改訂 第 10 版 救急救命士標準テキスト ・配付資料 等									
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		80								
評価方法・	レポー	١	0	宇期軸	式験 80%						
評価基準	小テス	۲	20		元泉 80%						
	提出物		0								
履修上の 留意事項	その他 レポー	トを課す	0 す場合がある。不	明点に	は、積極的に質	問すること。					
履修主題・	回		履修主題		履修内容						
履修内容	1	疾患の	 D理解		腎臓の疾患、	尿路の疾患					
	2	疾患の	 D理解		男性生殖器の)疾患、女性生殖器	器の疾患				
	3	観察と	こ判断		泌尿器系疾患	の主要症候					
	4	観察と	二判断		消化器系疾患	見の主要症候					
	5	泌尿・	・生殖系解剖		疾患の理解に	必要な基礎知識、	観察と判断	、緊急度判定			
	6	消化器			疾患の理解に	必要な基礎知識、	観察と判断	、緊急度判定			
	7	主な犯	 失 患		食道疾患						
	8	主な犯	笑患		胃・十二指腸疾患						
	9	主な犯	美患		腸疾患						
	10	主な犯			肝臓・胆道・	膵臓の疾患					

授業科目	消化器・泌尿器系疾患 B	担当 教員	川島	清志	看護師として救急医療に従事し、
7文未 行日	月10台· <i>地</i> 水台が失志 D	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

								1		
授業科目	心肺停」	止 A			担当教員	池田悠輔				
対象年次・学期	2年・前	前期		必值	冬・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的	目的・心肺停止患者の病態・処置を学び、			学び、	理解する。					
到達目標	・蘇生の	のメカニ	ニズムを理解し、/	心肺停	『止傷病者に対	して、適切な活動	ができる。			
テキスト・ 参考図書等	・改訂	第 11	版 救急救命士標	票準テ	キスト					
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80							
評価方法・	レポー	7	0	定相的	以 80%					
評価基準	小テス	7	20		-Z > 20%					
	提出物		0							
	その他	<u>пж - //</u>	0		7 ct. ct. 45 -43	~ <i>/* /*</i> ~	1 -10 1 -	• ÷= → ¬ = ∧ /°		
履修上の 留意事項			はないて確認訊 は、積極的に質問			成績が悪い場合は	、レホートを	と眯り る場合か		
履修主題・	回	履修主題				履修 個	容			
履修内容	1	総論			定義と概念、	概念、疫学、ウツタイン				
	2	心肺傷	事止に至る病態と!	京因	心肺停止時の	上時の病態、心肺蘇生の原理、心拍再開後の病態				
	3	心肺傷	停止に至る病態と[京因	心肺停止時の	時の病態、心肺蘇生の原理、心拍再開後の病態				
	4	心肺蘇生			心肺停止の判	断、心肺停止時σ)心電図変化			
	5	5 心肺蘇生			心肺停止時の心電図変化 、AED、蘇生に関わる因子					
	6	6 成人の CPR			ガイドライン 2020					
	7	7 成人の CPR			成人・小児・新生児の BLS					
	8	8 特定行為			静脈路確保と輸液					
	9	特定行為			器具気道確保(上気道デバイス)					
	10				器具気道確保(気管挿管)					
	11	特定行	 <u></u> 方為		薬剤投与(アドレナリン)					
	12	特定行			低血糖の判断	fとブドウ糖投与				
	13	メディ	r カルコントロー	レ	具体的指示と	包括的指示				
	14	病院前	 		1 次・2 次・ 症度の割合	3 次病院の違いに	ついて。年間	引搬送件数と重		
	15	まとめ	b		総合問題演習、解説					

授業科目	心肺停止 A	担当教員	川島清志		看護師として救急医療に従事し、
1支未代日	心肿性人	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	心肺停」	止 В		担当教員	池田 悠輔	池田悠輔				
対象年次・学期	2年・前	前期		必修・選択区分	必修	単位数				
授業形態				授業回数	15 回	時間数	30 時間			
授業目的	・心肺(・心肺停止患者の病態・処置を学び、			理解する。					
到達目標	・蘇生の	のメカニ	こズムを理解し、	心肺停止傷病者に	対して、適切な活動	かできる。				
テキスト・ 参考図書等	・改訂	第 11	版 救急救命士村	票準テキスト						
	評価	方法	評価割合(%)		評価基準					
	試験		80							
評価方法・	レポー	٢	0	定期試験 80%	#FA 000/					
評価基準	小テス	٢	2/1	定期試験 60% 確認テスト 20%	* * *					
	提出物		0							
	その他		0							
履修上の 留意事項			夏習として確認試 は、積極的に質問		。成績が悪い場合は	は、レポートを	を課する場合が			
履修主題・			履修主題		履修	内容				
履修内容	1	総論		定義と概念	義と概念、疫学、ウツタイン					
	2	心肺傷	浄止に至る病態と	京因 心肺停止時	心肺停止時の病態、心肺蘇生の原理、心拍再開後の病態					
	3	心肺傷	事止に至る病態と	京因 心肺停止時	肺停止時の病態、心肺蘇生の原理、心拍再開後の病態					
	4	心肺劑	养生	心肺停止σ	心肺停止の判断、心肺停止時の心電図変化					
	5	心肺劑	<u> </u>	心肺停止時	心肺停止時の心電図変化 、AED、蘇生に関わる因子					
	6	成人0) CPR	ガイドライ	ガイドライン 2020					
	7	成人0) CPR	成人・小児	成人・小児・新生児の BLS					
	8	特定行	元為	静脈路確係	静脈路確保と輸液					
		特定行	 T為	器具気道確	器具気道確保(上気道デバイス)					
	9	10 10			器具気道確保(気管挿管)					
	10	特定行		器具気道確	:保(気管挿管)					
	_		万為		保(気管挿管)					
	10	特定行	ī為 ī為	薬剤投与(
	10	特定行 特定行	ī為 ī為	薬剤投与(低血糖の判	アドレナリン)					
	10 11 12	特定行特定行	ī為 ī為 ī為	薬剤投与(低血糖の判 ル 具体的指示	アドレナリン) 断とブドウ糖投与 と包括的指示 ・3 次病院の違いに	ついて。年間	引搬送件数と重			
	10 11 12 13	特定行特定行	T為 T為 T為 Tカルコントロー T救護体制	薬剤投与(低血糖の判 ル 具体的指示 1次・2次	アドレナリン) 断とブドウ糖投与 と包括的指示 ・3 次病院の違いに	ついて。年間	引搬送件数と重			

授業科目	心肺停止 B	担当教員	川島清志		看護師として救急医療に従事し、
1支未行日	心帅任正臣	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目神経系	疾患 A		ž	担当教員	北川 正博	川正博			
対象年次・学期 2年・	前期		必修	・選択区分	必修	単位数			
授業形態			į	受業回数	10 回	時間数	20 時間		
授業目的・救急	救命士	こ必要な脳・神経	系疾患	を理解する。					
到達目標・神経	系疾患的	傷病者への対応が	べきる	o					
	「 第 11 ↑資料 〔	版 救急救命士 等	標準テ=	キスト					
評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
試験		80							
評価方法・レポー	١-	0	定期封	験 80%					
評価基準 小テス		20		スト 20%					
提出物		0							
その他 履修上の	<u> </u>	0							
留意事項 レポー	ポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。								
履修主題・回		履修主題		履修内容					
履修内容 1	疾患理	里解に必要な基礎	知識	神経系の構造と機能					
2	疾患理	里解に必要な基礎	知識	神経系疾患の主要症候					
3	疾患现	里解に必要な基礎	知識	緊急度・重症度の判断 JCS/GCS の理解					
4	おもた	 な疾患		脳血管障害(くも膜下出血、脳出血、脳梗塞)					
5	おもな疾患			脳血管障害(TIA、脳動静脈奇	形、もやもか	や病)		
6	おもな	 な疾患		髄膜炎、脳炎	、脳腫瘍、脳膿瘍	<u> </u>			
7	おもた	 な疾患		中枢疾患系の)感染症				
8	おもな	 は疾患		末梢神経疾患	<u> </u>				
			l II	その他の中枢神経疾患					
9	おもた	は疾患		その他の中枢	[神経疾患				

			Г		
授業科目	神経系疾患 A	担当教員	川島清志		看護師として救急医療に従事し、
1XX17 L	IT MILAN AND A	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	神経系統	疾患 B			担当教員	北川	2川 正博			
対象年次・学期	2年・前	前期		必作	多・選択区分	必修		単位数		
授業形態					授業回数	10 回		時間数	20 時間	
授業目的	・救急を	敗命士に	こ必要な脳・神経	きで理解する。						
到達目標	・神経	系疾患係	易病者への対応か	べきる	, ,					
テキスト・ 参考図書等		・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト・配付資料 等								
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80							
評価方法・	レポー	١-	0	中地	式験 80%					
評価基準	小テス	١-	20		式映 80% Fスト 20%					
	提出物		0							
	その他		0							
履修上の 留意事項	レポー	トを課す	す場合がある。不	明点に	は、積極的に質	問するこ	こと。			
履修主題・	回		履修主題	履修内容						
履修内容	1	疾患现	異解に必要な基礎	知識	神経系の構造と機能					
	2	疾患现	異解に必要な基礎	知識	神経系疾患の主要症候					
	3	疾患现	異解に必要な基礎	緊急度・重症度の判断 JCS/GCS の理解						
	4	おもな	な 疾患		脳血管障害(脳血管障害(くも膜下出血、脳出血、脳梗塞)				
	5	おもな	な 疾患	脳血管障害(TIA、脳	函静脈奇	形、もやもか	5病)		
	6	おもな	ぶ疾患		髄膜炎、脳炎	、脳腫		<u> </u>		
	7	おもな	 ¥疾患		中枢疾患系の	感染症				
	8	おもな	な 疾患		末梢神経疾患					
	9	おもな	\$疾患		その他の中枢	神経疾	患			
	10	まとめ	b		総合問題演習	1				

検索科目 「神経が休息 東務 経験 日当 教員 東務 接続 日当 教員 東務 上当 教員 東務 上出当 教員 上出当 教員 上出当 教員 上出当 教員 上出当 和 上出 和 和 上出 和 和 和 和 和 和 和 和 和						
東務數 有: 無: 対象年次・学期 2年・前期 担教員 実務 経験 担当 教員 実務 経験	坪 攀秋日	油级系症患 R	担当教員	川島清志		看護師として救急医療に従事し、
	1文本17口	TFボエスパス/心。 D	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
経験 担当 教員 実務 経験 担当 教 表験	対象年次・学期	2年・前期				
教員 実務 経動 出責 実務 経 出教 実経 担教 具	授業形態		実務 経験			
経験 担対員 実務験 担対員 実経験 担対員 実経験 担対員 実経験 担対員 実経験 担対員 実経験 担対員 実経験 担対員 実経験 担対員			担当 教員			
教員 実務 担当 実務 担当 費 実務 担当 も り り り り り り り り り り り り り り り り り り						
経験 担教 実務 担教 実務 担教 当員 実経験 担教 当員 実経験 担教 当員			担当教員			
教員 実務 経験 担教 実務 経験 担教 実務 経験 担教 実務 経験						
経験 担当教員 実務経験 担当教員 実務経験 担当教員 実務経験 担当教員 実務経験 担当教員 担当教員 						
教員 実務 経験 担当 教員 実務 経験 担当 教員 実務 経験						
経験 担当教員 実務 経験 担当教員 実務 経験 担当教員 担当教員						
教員 実務 経験 担当 教員 担当 教員						
経験 担当 教員 実務 経験 担当 教員						
教員 実務 経験 担当 教員						
経験 担当 教員						
教員			実務 経験			
☆ 24			担当教員			
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			実務 経験			
担当 教員			担当教員			
			実務経験			
			担当教員			
実務			実務経験			

授業科目	生命倫理	理 A			担当教員	麻生 尚			
対象年次・学期	2年・前	前期		必作	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	8 🛛	時間数	16 時間	
授業目的	して医療	療をめぐ		しい姿	変化が生じてき	が対立するような た。対象の意思を			
到達目標	・「命」	につい	て深く学び、相手	手の気	持ちに配慮した	に傷病者対応ができ	きる。		
テキスト・ 参考図書等	・配付	資料(-						
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		70						
評価方法・	レポー	٢	0	← #n ±.	±54 000/				
評価基準	小テス	٢	30		式験 80% 5(レポート提	出他)20%			
	提出物		0	1 1137	(= 1 3				
	その他		0						
履修上の 留意事項	つかの! 目標と:	問題に終される。	交って授業を行う	。実際は、実際	系に、「知識」を 際に問題に直配	においてより深刻 Eもつのではなく、 面したときに対処で	「問題意識」	· をもつことが	
履修主題・	回		履修主題			履修内容			
履修内容	1	生命作	論理と医の倫理		生命倫理とは	は何か 人間の尊厳			
	2	イン	フォームドコンセント		人間の尊厳	間の尊厳 インフォームドコンセント			
	3	5	め権利を護る立場か		患者の自己決	央定権 善行の原則			
	4	5	め権利を護る立場か		功利主義 愚	發行権 尊厳死			
	5	5	音の権利を護る立 		安楽死にまつ	わる「滑り坂」論	論法		
	6	傷病者 ら	省の権利を護る立	場か	生活の質と生命の質、優生思想				
	7	救急救	枚命士の職業倫理		パーソン論	命の選別			
	8	まとめ	<u> </u>		生命の神聖さ	と生命の質 生命	命倫理まとめ		

担当 教員 麻生尚志 有: 無: 対象年次・学期 2年・前期 担当 教
経験
大学
投業が恐 担当 教員 実務 経験 担当 教員 実務 経験 担当 教員 実務 経験 担当 教員 実務 経験
教員 実務 経験 担当 教員 実務 経験 担当
経験 担当教員 実務経験 担当教員 実務経験 担当
教員 実務 経験 担当 教員 実務 経験 担当
経験 担当 教員 実務 経験 担当
教員 実務 経験 担当
経験 担当
実務 経験
担当教員
実務
担当教員
実務
担当 教員
実務と経験
担当 教員
実務
担当 教員
実務 経験

授業科目	生命倫理	理 B			担当教員	麻生 尚			
対象年次・学期	2年・前	前期		必作	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	8 🛽	時間数	16 時間	
授業目的	して医療	療をめぐ		しい姿	変化が生じてき	が対立するような た。対象の意思を			
到達目標	・「命」	につい	て深く学び、相手	手の気	持ちに配慮した	に傷病者対応ができ	きる。		
テキスト・ 参考図書等	・配付	資料(-						
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		70						
評価方法・	レポー	٢	0	c #61 +.	#EA 000/				
評価基準	小テス	٢	30		式験 80% 点(レポート提	出他)20%			
	提出物		0	1 1137	(2 .3 . 1 3				
	その他		0						
履修上の 留意事項	つかの! 目標と:	問題に終される。	交って授業を行う	。実際は、実際	いいである。 際に問題に直び	においてより深刻 Eもつのではなく、 面したときに対処で	「問題意識」	· をもつことが	
履修主題・			履修主題			履修内容			
履修内容	1	生命條	論理と医の倫理		生命倫理とは	は何か 人間の尊厳			
	2	インス	フォームドコンセント		人間の尊厳	人間の尊厳 インフォームドコンセント			
	3	5	め権利を護る立場か		患者の自己決	央定権 善行の原則			
	4	5	め権利を護る立場か		功利主義 愚	最行権 尊厳死			
	5	5	番の権利を護る立		安楽死にまつ	わる「滑り坂」論	油法		
	6	傷病者 ら	舌の権利を護る立	場か	生活の質と生	命の質、優生思想	3		
	7	救急救	枚命士の職業倫理		パーソン論	命の選別			
	8	まとめ	b		生命の神聖さ	と生命の質 生命	命倫理まとめ		

	担当		
授業科目 生命倫理 B	教員	麻生尚志	
	実務経験	有: 無:	
対象年次・学期 2年・前期	担当 教員		
授業形態	実務 経験		
	担当教員		
	実務 経験		
	担当教員		
	実務 経験		
	担当教員		
	実務経験		
	担当教員		
	実務 経験		
	担当教員		
	実務 経験		
	担当教員		
	実務 経験		
	担当教員		
	実務 経験		
	担当教員		
	実務経験		
	—————————————————————————————————————		
	実務経験		

授業科目	精神障	害 A			担当教員	足立 卓也				
対象年次・学期	2 年・前	前期		必何	多・選択区分	必修		単位数	数	
授業形態					授業回数	8 回		時間数	数 16	時間
授業目的	・精神	疾患と#	青神障害患者につ	いて理	里解する。					
到達目標	・精神	障害者/	への対応ができる) o						
テキスト・ 参考図書等	・配付	資料 等	Ē							
	評価	方法	評価割合(%)		評価基準					
	試験		80							
評価方法・	レポー	١	0	完加部	式験 80%					
評価基準	小テス	١-	20		元献 50 % テスト 20 %					
	提出物		0							
	その他		0							
履修上の 留意事項	講義と	ビデオ教	枚材を使用。居眠	り厳勢	*!不明点は、	、積極的に	質問する	こと。		
履修主題・	回		履修主題				履修 層	内容		
履修内容	1	精神和	斗総論		精神障害・総論					
	2	内因性	生精神病		統合失調症					
	3	内因性	生精神病	統合失調症						
	4	内因性	生精神病	気分障害 鬱病						
	5	内因性	生精神病	気分障害 躁鬱病						
	6	心因性精神障害			神経症					
	7	心因性	生精神障害	人格障害						
	8	その他	<u>t</u>		心因・外因	性精神障害	、精神科	4入院、3	救急対応、	国試対策

授業科目	精神障害 A	担当教員	足立卓也		医療機関において医師として勤
技兼代日	科門學古 A	実務 経験	有:	無:	務し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	精神障	害 B			担当教員	足立 卓也				
対象年次・学期	2 年・前	前期		必何	多・選択区分	必修		単位数	汝	
授業形態					授業回数	8 回		時間数	数 16日	诗間
授業目的	・精神	疾患と#	青神障害患者につ	いて理	聖解する 。				•	
到達目標	・精神	障害者/	への対応ができる) o						
テキスト・ 参考図書等	・配付	資料 等	Ē							
	評価	方法	評価割合(%)		評価基準					
	試験		80							
評価方法・	レポー	١-	0	空期的	武験 80%					
評価基準	小テス	١-	20		元					
	提出物		0							
	その他		0							
履修上の 留意事項	講義と	ビデオ教	数材を使用。居眠	り厳勢	といいまでは、	積極的に	質問する	こと。		
履修主題・	回		履修主題		履修内容					
履修内容	1	精神和	斗総論		精神障害・総論					
	2	内因性	生精神病		統合失調症					
	3	内因性	生精神病		統合失調症					
	4	内因性精神病			気分障害 鬱病					
	5	内因性精神病			気分障害 躁鬱病					
	6	心因性精神障害			神経症					
	7	心因性精神障害			人格障害					
	8	その他	<u>t</u>		心因・外因	性精神障害	、精神科	4入院、 2	救急対応、	国試対策

授業科目	精神障害 B	担当 教員	足立卓也		医療機関において医師として勤
IXXIII	THITTE D	実務 経験	有:	無:	務し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	総合シ	ミュレ-	ーション A		担当教昌	担当教員 池田 悠輔				
								1		
対象年次・学期 	2年・	後期		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	68 回	時間数	135 時間		
授業目的	・救急	活動にす	おける多種多様な	手技及	ひ現場での行	動要領の理解と習	熟を目標と	する。		
到達目標	・救急	救命士と	としての様々な琲	場活重	加能力及び手技	を習得し実践でき	`る。			
テキスト・ 参考図書等										
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験	ı	80							
評価方法・ 評価基準	レポー 小テス		0		式験 80%					
	提出物	•	0	効果》	則定 20%					
	その他		20							
履修上の 留意事項	多種多樣	様な救急	急現場に対応する	ために	こ、バリエーシ	ョン豊富な実習を	実施する。			
履修主題・	回		履修主題			履修				
履修内容	1	防災記	川練等参加		防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見 学、救急医学会学会聴講					
	2	防災記	川練等参加		防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見 学、救急医学会学会聴講					
	3	防災記	川練等参加		防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見 学、救急医学会学会聴講					
	4	防災記	練等参加		防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見 学、救急医学会学会聴講					
	5	防災記	川練等参加		防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見 学、救急医学会学会聴講					
	6	防災記	川練等参加		防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見 学、救急医学会学会聴講					
	7	標本館	· 信見学		標本館見学					
	8	標本館	館見学		標本館見学					
	9	外傷衫			JPTEC					
	10	外傷衫			JPTEC					
	11	外傷初			JPTEC					
	12	外傷衫			JPTEC 防災訓練への)参加及び消防関係	系施設見学、	自衛隊施設見		
	13		川練等参加 		防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見学、救急医学会学会聴講 防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見					
	14	防災記	川練等参加 ————————————————————————————————————		学、救急医学会学会聴講					
	15	防災記	練等参加		防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見 学、救急医学会学会聴講					
	16	防災記	川練等参加		防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見 学、救急医学会学会聴講					
	17	防災記	川練等参加		防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見 学、救急医学会学会聴講					
	18	防災記	川練等参加		防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見 学、救急医学会学会聴講					
	19	救急图	医療		救急医療とは	t				
	20	救急图	医療		救急医療の実	ミ際				

21	DNAR	DNAR とは
22	DNAR	DNAR とは
23	CPA プロトコール	器具気道確保(LT・LM)
24	CPA プロトコール	器具気道確保(LT・LM)
25	CPA プロトコール	器具気道確保(LT・LM)
26	CPA プロトコール	器具気道確保(LT・LM)
27	CPA プロトコール	器具気道確保 (気管挿管)
28	CPA プロトコール	器具気道確保(気管挿管)
29	CPA プロトコール	器具気道確保 (気管挿管)
30	CPA プロトコール	器具気道確保 (気管挿管)
31	CPA プロトコール	静脈路確保/アドレナリン
32	CPA プロトコール	静脈路確保/アドレナリン
33	CPA プロトコール	静脈路確保/アドレナリン
34	CPA プロトコール	静脈路確保/アドレナリン
35	低血糖	ブドウ糖投与
36	低血糖	ブドウ糖投与
37	低血糖	ブドウ糖投与
38	低血糖	ブドウ糖投与
39	効果測定	各プロトコールの効果測定
40	効果測定	各プロトコールの効果測定
41	効果測定	各プロトコールの効果測定
42	効果測定	各プロトコールの効果測定
43	効果測定	各プロトコールの効果測定
44	効果測定	各プロトコールの効果測定
45	CBL	脳神経
46	CBL	脳神経
47	CBL	循環器
48	CBL	循環器
49	CBL	呼吸器
50	CBL	呼吸器
51	CBL	消化器
52	CBL	消化器
53	CBL	内分泌
54	CBL	内分泌
55	CBL	代謝
56	CBL	代謝
57	CBL	泌尿器
58	CBL	泌尿器
59	CBL	筋・骨格系
60	CBL	筋・骨格系
61	CBL	血液/免疫系
62	CBL	血液/免疫系

63	CBL	環境				
64	CBL	環境				
65	雪山救助訓練	雪崩救助を想定した実施訓練				
66	雪山救助訓練	雪崩救助を想定した実施訓練				
67	雪山救助訓練	雪崩救助を想定した実施訓練				
68	雪山救助訓練	雪崩救助を想定した実施訓練				

対象年次・学期 2年・後期 接続 有: 無: 育を行う 接続 担割 実務 接続 担割 実務 提級 上割 工具 工具 工具 工具 工具 工具 工具 工						
大学明 2年・後期 2年 2年 2年 2年 2年 2年 2年 2	恒業权日		担当 教員	池田悠輔		救急救命士として、当該科目の教
投業形態	5文未代日	総ログミュレージョン A	実務 経験	有:	無:	育を行う
経験	対象年次・学期	2年・後期	担当 教員			
教員 実務 担對 実務 担教 実務 担教 実務 担教 実務 担教 実務 担教 実務 担教 実務 担教 実務 担教 実務 担教 実務 担教 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	授業形態					
経験			担当教員			
教員 実務 担当員 実務験 担教 実経 担教 実経 担教 実経 担当 表 経 担 担 支 長 経 担 担 支 長 経 担 担 支 長 経 長 日 担 支 長 長 日 長 日 長 日 長 長 日 長 長 長 長 長 長 長 長 長						
経験 担当						
教員 実務 経験 担教 実経験 担教 実経験 担当 教 経験 担当 教 経験 担当 教 経験 担当 教 経験 担当 教 経 担 力 教 経 経 担 力 教 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長						
経験			担当教員			
支援						
経験 担当教 実務験 担当教 実経験 担当教 実経験 担当員 実経験						
教員 実務 担当教 実務 担当教 実務 担当教 実務 担当教 実務 経験						
経験 担当 教 経験 担当 教員 実務 経験 担当 教員 実務 経験						
教員 実務 経験 担当 教員 実務 経験			実務経験			
経験 担当 教員 実務 経験 担当 教員 実務 経験			担当教員			
教員 実務 経験 担当 教員 実務 経験			実務 経験			
実務 経験 担当 教員 実務 経験						
教員 実務 経験			実務			
実務経験			担当教員			
			実務			
担当			担当			
			実務			

授業科目	総合シ	ミュレ-	ーション B		担当教員 池田 悠輔				
対象年次・学期	2 年・復	・後期			多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	68 回	時間数	135 時間	
授業目的	・救急活動における多種多様な手技				ひ現場での行	動要領の理解と習	熟を目標とす	する。	
到達目標	・救急	救命士と	としての様々な琲	場活重	前能力及び手技	を習得し実践でき	る。		
テキスト・ 参考図書等									
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		80						
評価方法・	レポー		0	宝技章	式験 80%				
評価基準	小テス	-	0		现象 80% 則定 20%				
	提出物		0						
屋校 L の	その他		20						
履修上の 留意事項	多種多	3種多様な救急現場に対応するために 			こ、バリエーシ	ョン豊富な実習を	実施する。 ————		
履修主題・	回		履修主題			履修[内容		
履修内容	1	防災記	川練等参加		防災訓練への参加及び消防関係施設見学、学会聴講				
	2	防災記	川練等参加		防災訓練への参加及び消防関係施設見学、学会聴講				
	3	防災記	川練等参加		防災訓練への参加及び消防関係施設見学、学会聴講				
	4	防災記	川練等参加		防災訓練への参加及び消防関係施設見学、学会聴講				
	5	防災記	川練等参加		防災訓練への参加及び消防関係施設見学、学会聴講				
	6	防災記	川練等参加		防災訓練への参加及び消防関係施設見学、学会聴講				
	7	標本館	官見学		標本館見学				
	8	標本館	官見学		標本館見学				
	9	外傷衫	刃療		JPTEC				
	10	外傷衫	刃療		JPTEC				
	11	外傷衫			JPTEC				
	12	外傷衫	刃療		JPTEC				
	13	防災記	川練等参加		防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見 学、救急医学会学会聴講				
	14	防災記	川練等参加		防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見 学、救急医学会学会聴講				
	15	防災訓練等参加			防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見 学、救急医学会学会聴講				
	16	防災訓練等参加			防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見 学、救急医学会学会聴講				
	17	防災訓練等参加			防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見 学、救急医学会学会聴講				
	18	防災訓練等参加			防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見 学、救急医学会学会聴講				
	19	救急图	医療		救急医療とは				
	20	救急图	医療		救急医療の実際				
	21	DNAF	?		DNAR とは				

22	DNAR	DNAR とは
23	CPA プロトコール	器具気道確保(LT・LM)
24	CPA プロトコール	器具気道確保(LT・LM)
25	CPA プロトコール	器具気道確保(LT・LM)
26	CPA プロトコール	器具気道確保(LT・LM)
27	CPA プロトコール	器具気道確保(気管挿管)
28	CPA プロトコール	器具気道確保(気管挿管)
29	CPA プロトコール	器具気道確保(気管挿管)
30	CPA プロトコール	器具気道確保(気管挿管)
31	CPA プロトコール	静脈路確保/アドレナリン
32	CPA プロトコール	静脈路確保/アドレナリン
33	CPA プロトコール	静脈路確保/アドレナリン
34	CPA プロトコール	静脈路確保/アドレナリン
35	低血糖	ブドウ糖投与
36	低血糖	ブドウ糖投与
37	低血糖	ブドウ糖投与
38	低血糖	ブドウ糖投与
39	効果測定	各プロトコールの効果測定
40	効果測定	各プロトコールの効果測定
41	効果測定	各プロトコールの効果測定
42	効果測定	各プロトコールの効果測定
43	効果測定	各プロトコールの効果測定
44	効果測定	各プロトコールの効果測定
45	CBL	脳神経
46	CBL	脳神経
47	CBL	循環器
48	CBL	循環器
49	CBL	呼吸器
50	CBL	呼吸器
51	CBL	消化器
52	CBL	消化器
53	CBL	内分泌
54	CBL	内分泌
55	CBL	代謝
56	CBL	代謝
57	CBL	泌尿器
58	CBL	泌尿器
59	CBL	筋・骨格系
60	CBL	筋・骨格系
61	CBL	血液/免疫系
62	CBL	血液/免疫系
63	CBL	環境

64	CBL	環境			
65	雪山救助訓練	雪崩救助を想定した実施訓練			
66	雪山救助訓練	雪崩救助を想定した実施訓練			
67 雪山救助訓練		雪崩救助を想定した実施訓練			
68	雪山救助訓練	雪崩救助を想定した実施訓練			

선생 사 기 디	المراجعة ا	担当 教員	池田悠輔		救急救命士として、当該科目の教
授業科目	総合シミュレーション B	実務 経験	有:	無:	育を行う
対象年次・学期	2年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当			
		実務経験			
		担当			
		実務 経験			
		担当			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		,,,,/			

授業科目	中毒各論・環境障害 A				担当教員	定本 圭弘			
対象年次・学期	2年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間	
授業目的	・中毒の法につい		体に及ぼす	影響と、対処方					
到達目標	・中毒	・中毒傷病者への対応ができる。 ・環境障害傷病者への対応ができる。							
テキスト・ 参考図書等		・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト ・配付資料 等							
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		80						
評価方法・	レポー		0	定期記	式験 80%				
評価基準	小テス	<u> </u>	20		テスト 20%				
	提出物		0						
履修上の 留意事項		トを課す	│ <u>゚</u> │ す場合がある。不	明点に	は、積極的に質	問すること。			
履修主題・			履修主題			履修 履	内容		
履修内容	1	中毒			中毒総論				
	2	中毒			中毒各論	各論 (医薬品中毒・農薬中毒・工業薬品中毒)			
	3	中毒			中毒各論 物)	•			
	4	異物、	救急隊活動		気道異物、チョークサイン、現場活動での注意点				
	5	環境障	章害		溺水・熱中症・低体温・放射線障害				
	6	環境障	章害		高山病・減圧	E障害・酸素欠乏・	凍傷・紫外	線障害	
	7	環境障	章害での救急隊活	動	現場活動での注意点				
	8	実践問	問題演習 中毒		国家試験模試から抜粋した中毒に関する問題を解く				
	9	実践問	月題演習 環境障	害	国家試験模詞	式から抜粋した環境	意障害に関す	る問題を解く	
	10	まとめ	b		総合問題演習、解説				

授業科目	中毒各論・環境障害 A	担当 教員	川島	清志	看護師として救急医療に従事し、
1文未代日	中母百跚,场境障告 A	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	中毒各論・環境障害 B				担当教員	定本 圭弘				
対象年次・学期	2年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間		
授業目的	・中毒の法につい			につい	1て理解する。	て理解する。・環境障害が人体に及ぼす影響と、対処方				
到達目標	・中毒	・中毒傷病者への対応ができる。 ・環境障害傷病者への対応ができる。								
テキスト・ 参考図書等		・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト ・配付資料 等								
	評価を	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80							
評価方法・ 評価基準	レポー		0	定期記	式験 80%					
許伽基华	小テス	<u> </u>	20		テスト 20%					
	提出物		0							
履修上の 留意事項		トを課す	│ <u>゚</u> ┃ す場合がある。不	明点に	は、積極的に質	問すること。				
履修主題・			履修主題		履修内容					
履修内容	1	中毒			中毒総論					
	2	中毒			中毒各論	S論 (医薬品中毒・農薬中毒・工業薬品中毒)				
	3	中毒			中毒各論物)					
	4	異物、	救急隊活動		気道異物、チョークサイン、現場活動での注意点					
	5	環境障	章害		溺水・熱中症・低体温・放射線障害					
	6	環境障	章害		高山病・減圧	E障害・酸素欠乏・	凍傷・紫外	線障害		
	7	環境障	章害での救急隊活	動	現場活動での注意点					
	8	実践問	問題演習 中毒		国家試験模試から抜粋した中毒に関する問題を解く					
	9	実践問	月題演習 環境障	害	国家試験模誌	式から抜粋した環境	意障害に関す	る問題を解く		
	10	まとめ	b		総合問題演習、解説					

授業科目	中毒各論・環境障害 B	担当 教員	川島	清志	看護師として救急医療に従事し、
5 文未代日	中母百跚·坂垷倬吉 D	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	ショック・循環不全 A			担当教員	川島 清志					
対象年次・学期	2年・前期			必值	き・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間		
授業目的	・ショックの病態について理解し、対処する基盤を養う。(ショック時の輸液に対応する)									
到達目標	・ショックの病態、判断、処置について説明が十分にできる。									
テキスト・ 参考図書等	・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト									
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験	験 80								
評価方法・	レポー	١-	0	宇宙部	明試験 80%					
評価基準	小テス	١	20	確認テスト 20%						
	提出物		0							
	その他		0							
履修上の 留意事項	毎回の	授業の約	冬わりに確認試験	を実施	6。定期試験の	点数に加算する。	しっかり復習	望をすること。		
履修主題・	回		履修主題			履修 [內容			
履修内容	1	循環隊	章害について		虚血と梗塞、	うっ血				
	2	循環隊	章害について		浮腫、出血、血液凝固					
	3	ショ: 基礎知	ックを理解する上 □識	での	ショックの定義、病態生理、循環動態					
	4		Ⅱ液量減少性ショ ン原性ショック	ツ	発症機序、循環動態の変化					
	5		∄塞・拘束性ショ Ⅱ液分布異常性シ		発症機序、循環動態の変化					
	6	ショッ	ックに陥る病態		発症機序、循環動態の変化、ショックの判断と種類、病態 の理解					
	7	ショッ	ックに陥る病態		ショックの判断と種類、病態の理解、クラッシュ症候群					
	8	ショッ 定行為	ック傷病者に対す る	る特	特定行為としての輸液について					
	9	まとめ	<u> </u>		ショックの定	E義、病態生理、病	態の理解			
	10	まとめ	<u> </u>		ショックの判 いて	クの判断と種類、循環動態、血液の流れ、輸液につ				

授業科目	ショック・循環不全 A	担当 教員	苑田	裕樹	看護師として救急医療に従事し、
技業代日	ジョック・個場小王 A	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う。
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	ショック・循環不全 B			担当教員	川島 清志					
対象年次・学期	2年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間		
授業目的	・ショックの病態について理解し、対処する基盤を養う。(ショック時の輸液に対応する)									
到達目標	・ショックの病態、判断、処置について説明が十分にできる。									
テキスト・ 参考図書等	・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト									
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80							
評価方法・	レポー	١-	0	空期的	期試験 80%					
評価基準	小テス	۲	20	建設テスト 20%						
	提出物		0							
	その他		0							
履修上の 留意事項	毎回の打	受業の対	台めに確認試験を	実施。	定期試験の点	数に加算する。し	っかり復習る	をすること。		
履修主題・	回		履修主題			履修风	内容			
履修内容	1	循環隊	章害について		虚血と梗塞、	うっ血				
	2	循環隊	章害について		浮腫、出血、	血液凝固				
	3	ション基礎知	ックを理解する上 口識	での	ショックの定義、病態生理、循環動態					
	4		Ⅱ液量減少性ショ ン原性ショック	ツ	発症機序、循環動態の変化					
	5		∄塞・拘束性ショ Ⅱ液分布異常性シ		発症機序、循	5環動態の変化				
	6	ショッ	ックに陥る病態		発症機序、循環動態の変化、ショックの判断と種類、病態 の理解					
	7	ショッ	ックに陥る病態		ショックの判断と種類、病態の理解、クラッシュ症候群					
	8	ション定行為	ック傷病者に対す る	る特	特定行為としての輸液について					
	9	まとめ	<u> </u>		ショックの定	至義、病態生理、 病	態の理解			
	10	まとめ	<u></u>		ショックの¥ いて	ョックの判断と種類、循環動態、血液の流れ、輸液につ て				

授業科目	ショック・循環不全 B	担当 教員	苑田	裕樹	看護師として救急医療に従事し、
技未行口	ンヨック・III 場个王 D	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う。
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			